

## 第 57 回日本母性衛生学会総会・学術集会

テーマ 母性衛生に携わる喜び～自負と矜持

大会長 正岡 直樹 (東京女子医科大学八千代医療センター母体胎児科・婦人科教授)

開催年月日 平成 28 年 10 月 14 日(金)・15 日(土)

会場 品川プリンスホテル

総参加人数：2,056 名



### 第 57 回日本母性衛生学会学術集会を終えて

平成 26 年 9 月 13 日森恵美理事が幕張メッセで主催した第 55 回の総会時に正式に第 57 回を担当することが決定しました。私は平成 13 年に当時幹事長であった飯塚貞男先生から誘われ幹事に就任、その後平成 17 年から幹事長、平成 21 年から理事としてこの学会運営に携わり、学会が任意団体から有限責任中間法人、公益社団法人へと発展していく過程を目の当たりにしてきました。このような伝統ある学会をお世話させていただくことは、開設からまだ 10 年という東京女子医科大学八千代医療センター母体胎児科・婦人科にとりまして大変光栄なことであるとともに少ない医局員で果たして対応できるか不安も大きなものがありました。総会以前の理事会すでにご承認をいただいていたため同日に期日、会場をアナウンスする必要がありました。私の所属する東京女子医科大学八千代医療センターは千葉県八千代市にあるため千葉県での開催を考えましたが、第 55 回が幕張で、第 49 回の北村邦夫先生が浦安ですすでに開催されており、また 55 回時のアンケートで東京での開催を望む声も多かったことを知り、思いきって東京での開催といたしました。東京での開催は第 45 回の木下勝之先生以来となり 12 年振りとなります。また女子医科大学の担当も第 1 回、2 回の久慈直太郎先生以来ですので実に 55 年振りとなりますので、なんとしても成功させようと、自ずと身の引き締まる思いがしました。会場は当初ホテルニューオータニと発表しましたが、諸般の事情で品川プリンスホテルとなり、また日程も平成 28 年 10 月 14 日、15 日と変更となりました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。しかし今回の会場となった品川プリンスホテルは JR 品川駅前にあります。品川駅には新幹線が止まり、また羽田空港からも近く、まさに交通至便な立地条件でした。さらに両日も晴天に恵まれ、お陰さまで多くの皆様に参加していただきました。



本学会は、戦後、医療関係者の努力によって母子保健は次第に向上しつつあったにもかかわらず、妊産婦死亡率が一向に低下せず、欧米諸国に著しい遅れをとっている事態を憂慮し、初代理事長 森山 豊先生、第 2 代理事長松本清一先生らが話し合い、医師のみでなく、母子保健に関わる助産師、保健師らの医療関係者ならびに性教育に携わる方々も含めて昭和 35 年に設立されました。設立にあたっては「すべての女性の健康を守り、母性を健全に発達さ

せ、母性機能を円滑に遂行させるために、母性衛生に関する研究、知識の普及、関係事業の発展を図り、もって人類の福祉に寄与する」という高邁な目的が呈示されました。本学会の歴史は、まさにドラマチックに改善の一途を辿ってきた我が国の母子保健医療の進歩とともにあったといえます。妊娠・分娩・産褥を含め母子保健の改善のため献身的な努力を重ね、世界一安全ともいわれる現在の環境を作り上げた先人達に思いを馳せる時、自ずと頭の下がる思いがするとともに、その流れの中に、極わずかな関与であったとはいえ我が身をおけたことに喜びを禁じ得ません。そのような思いをもってメインテーマを「母性衛生な携わる喜び-自負と矜持-」としました。すなわち私たちは母性衛生という生命現象の原点をケアするという非常に意義のある重要な分野を担っていますが、単にプライド（自負）を持つだけでなく、職務に対するこだわり、信念を曲げない強い意思、妥協しない態度（矜持）を持つという意味を込めました。

プログラムの企画にあたっては日本母性衛生学会総務担当理事、千葉県母性衛生学会、東京母性衛生学会、東京女子医科大学看護学部、東京女子医科大学附属病院看護局の皆様にご協力いただきました。

### 企画委員会名簿

安藤紀子（横浜市立市民病院産婦人科部長）  
石川紀子（恩師財団母子愛育会愛育病院師長）  
内田朋子（東京女子医科大学病院師長）  
馬木小夜子（東京女子医科大学東医療センター師長）  
長田久夫（千葉大学周産期母性科診療教授）  
大館博美（東京女子医科大学八千代医療センター師長）  
小川久貴子（東京女子医科大学看護学部教授）  
茅島江子（東京慈恵会医科大学看護学科教授）  
斉藤益子（帝京科学大学看護学科教授）  
坂上明子（千葉大学大学院看護学研究科准教授）  
島田祥子（東京医療保健大学講師）  
神保正利（昭和大学江東豊洲病院産婦人科講師）  
鈴木 真（亀田総合病院産婦人科部長）  
高橋眞理（順天堂大学大学院医療看護学研究科・医療看護学部教授）  
谷垣伸治（国立成育医療センター周産期・母性診療センター産科医長）  
牧野仁美（東京女子医科大学病院師長）  
松田義雄（国際医療福祉大学教授）  
三谷 穰（東京女子医科大学産婦人科講師）

「いのち」をキーワードとして、招聘講演に仁志田博司先生から「出生をめぐる生命倫理～その基礎となる連続と不連続の思想」、特別講演にさだまさし氏から「いのちの理由」と題してご講演をいただきました。その他にも理事長講演、会長講演、教育講演 8 本、シンポジウム 5 本、ワークショップ 1 本の構成となり、どの会場も多くのご参加を得ることができました。その中、シンポジウム 5 では参議院議員で国務大臣（女性活躍・行政改革点国家公務員制度担当・規制改革・少子化対策・男女共同参画担当）であった有村治子先生から基調講演として非常に有用なお話をいただきました。

一方、近年の懸案事項であったランチョンセミナーも各企業のご理解を得て 12 本開催することができ、興味あるセミナーの内容ももちろんですが参加者にとって昼食の便宜を図ることができました。



市民公開講座は神主でもある岡本彰夫先生から「父と母」、日本赤十字社事業本部の高梨美乃子から「さい帯血の不思議」、アンチエイジングでご高名な竹田義彦先生から「年を重ねても健康でいるために」と一般の人からも興味を持っていただける3講演を準備しました。広報に苦勞しましたが幸い多くのかたにご参加いただけました。

実践講座として「超音波実践セミナー」（代表講師：谷垣伸治先生）と「母体救命救急講習-京都プロトコール(J-CIMELS ベーシック)デモンストレーションコース-」（代表講師：長田久夫先生）を開催して、大変好評でした。

一般演題も 503 題と多くの演題もいただき、口演とポスターに分かれ活発な討論が行われました。特筆すべきは今回、母子愛育会のご好意で「メディカル愛育賞」が設けられ、前もって選考された高得点演題 12 題を優秀演題賞候補として口演していただき審査委員会によって4題が総会時に表彰されました。今後も継続予定となっていますので、演題応募のモチベーションの一助になればと期待しています。



1 日目の総懇親会は吉岡俊正東京女子医科大学理事長、岩本絹子副理事長をはじめとして 125 名もの方にご参加をいただきました。余興では医局員の岩根先生の歌唱の後、私の大学の後輩で産婦人科医でもある Marie の *Illusion* で大いに楽しんでいただけたことと思います。

これだけ大掛かりな学会を開催するにあたっては、健全な収支を実現するため教育講演の一つを共催講演としたり、ワークショップを CLoCMiP の認定コースとし共催企業をつけるなど医局員一同様々な努力をしました。その結果、東京女子医科大学、産婦人科学教室同門会、千葉産科婦人科医学会、関連病院、日本大学産婦人科同窓の先生方から多額のご寄付をいただきました。また、先述したランチョンセミナーも含め、企業の方々から展示、広告掲載と多大なご協力いただきました。改めて御礼申し上げます。

コンベンションの日本旅行も当学術集会の担当は初めてであったため、不慣れな点多々あり皆様にご不便をおかけしましたが、次期 58 回の山田会長を補佐するための一助になったなら幸いです。

本学術集会に参加していただいた全ての方が母性衛生に携わる素晴らしさを再認識して明日からの仕事の励みとしていただけたなら、主催者としてこれ以上の喜びはありません。

本稿を終えるにあたり、このような貴重な機会をお与えいただいた池ノ上理事長をはじめとする役員各位、学会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

## 開催概要

---

招請講演：仁志田 博司「出生をめぐる生命倫理～その基礎となる連続と不連続の思想」 (座長 池ノ上 克)

理事長講演：池ノ上 克「原著に学ぶクリステレル胎児圧出法」 (座長 伊藤博之)

特別講演：さだまさし「いのちの理由」 (座長 正岡直樹)

会長講演：正岡直樹「母性衛生に携わる喜び -自負と矜持-」 (座長 山田秀人)

教育講演：(1) 金山尚裕「羊水塞栓の病態と管理」 (座長 福嶋明宗)

(2) 大槻 久「進化生物学からみた閉経」 (座長 佐々木純一)

(3) 新田裕史「エコチル調査からみえてきた子供の健康と環境」 (座長 森 恵美)

(4) 新宅治夫「低酸素虚血性脳症(HIE)に対するさい帯血幹細胞移植」 (座長 竹田 省)

(5) 内潟安子「ウィメンズヘルスは小児期から」 (座長 成田 伸)

(6) 服部律子「母と子のメンタルヘルスのために助産師ができること、すべきこと」 (座長 遠藤俊子)

(7) 松田義雄「切迫早産管理：最新の知識 2016」 (座長 高桑好一)

(8) Kim Suk Young「Postpartum care center: present status and future in Korea」 (座長 菅沼信彦)

シンポジウム①「多様化する分娩ニーズへの対応」 (座長 関 博之・石川紀子)

(1) 加藤里恵「無痛分娩」

(2) 間中伴子「院内助産における対応」

(3) 松岡悦子「分娩体位の再考-分化人類学の視点から」

(4) 鈴木恵子「バースプラン」

シンポジウム②「Gender based violence の連鎖を断ち切る」

(座長 高橋真理・茅島江子)

(1) 加茂登志子「ドメスティック・バイオレンス被害母子に対する親子相互交流療法(PCIT)の効果」

(2) 本田朋子「豪州を含む世界における女性への暴力の実態、介入と予防策」

(3) 平川和子「急がれるワンストップ支援の拡充」

(4) 角田由紀子「女性への暴力のない社会を目指して」

シンポジウム③「ハイリスク母児への早期介入を目的とした妊娠時からの支援」

(座長 松田義雄・米山万里枝)

(1) 川口晴菜「要支援妊婦を支える」

(2) 山本智美「施設におけるハイリスク母児の支援」

(3) 島田祥子「産科医療機関と行政機関の実情を踏まえたハイリスク母児への連携支援について」

(4) 早坂由里恵「ハイリスク母子の支援における医療機関（産科）との連携について」

(5) 神ノ田昌博「わが国の母子保健施策」

シンポジウム④「父親の育児の現状と支援のありかた」

(座長 北村邦夫・山崎圭子)

(1) 松田茂樹「求められる少子化対策の拡充-結婚、出産、育児しやすい国を目指して-」

(2) 安藤哲也「笑っている父親が日本の子育てを、社会を変える」

(3) 川島高之「イクボスの奨め：職場の改革」

シンポジウム⑤「こどもを生むことを選択できる社会を目指して」

(座長 齊藤益子・福岡秀興)

基調講演：有村治子「少子化政策・女性活躍担当大臣を担って」

- (1) 小川久貴子「若年母への支援」
- (2) 原 利夫「卵子の老化と妊孕性の温存」
- (3) 松峰寿美「高齢妊娠・出産の功罪」
- (4) 齊藤益子「思春期からの妊活教育」

ワークショップ「妊娠糖尿病 妊娠中の血糖コントロールの基本の“き”がわかる」

(座長 福井トシ子・大館博美)

- (1) 柳澤慶香「妊娠中の血糖コントロールに必要な検査」
- (2) 楠田 聡「糖代謝異常母体から出生し治療が必要となる新生児」
- (3) 福井トシ子「妊娠中の血糖コントロールの基本の“き”がわかる」
- (4) 「事例で考えよう！妊娠各期の支援ポイント」

福井トシ子  
肥後直子  
檜原直美  
弘田伴子  
森 小律恵

市民公開講座

- (1) 岡本彰夫「父と母」 (座長 瓦林達比古)
- (2) 高梨美乃子「さい帯血の不思議」 (座長 中林正雄)
- (3) 竹田義彦「アンチエイジング：年を重ねても健康でいるために」 (座長 坂上明子)